

玄海原子力発電所における基準津波の見直しについて

玄海原子力発電所の基準津波は、「対馬南西沖断層群」と「宇久島北西沖断層群」の連動を考慮して策定しています。

2022年3月に地震調査研究推進本部が公表した長期評価では、「宇久島北西沖断層群」や「中通島西方沖断層群」が分布する海域の活断層を「第1五島堆断層帯」としています。

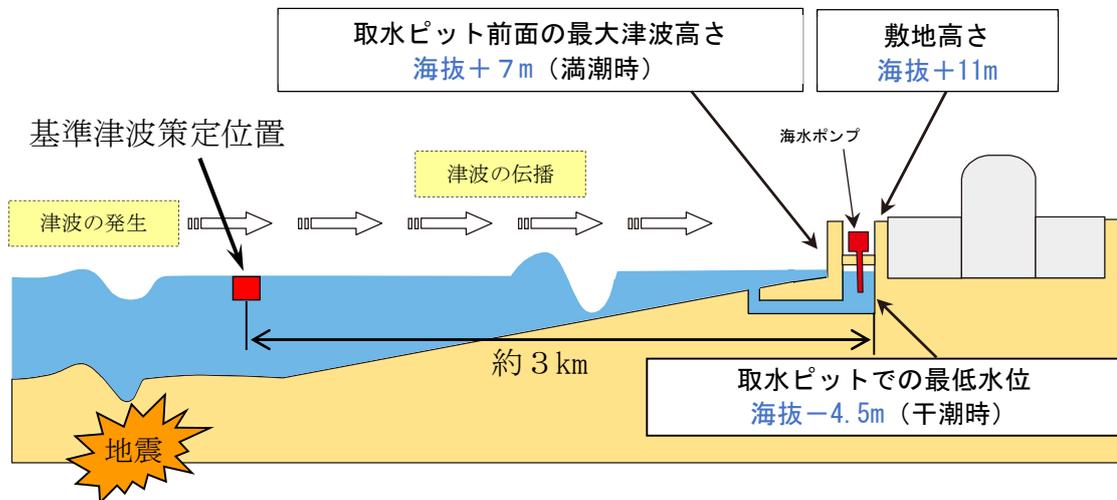
当社は、同本部の長期評価を踏まえ、更なる安全性・信頼性向上の観点から、「対馬南西沖断層群」と「第1五島堆断層帯」の連動を考慮し、基準津波の見直しを行いました。

また、基準津波の見直しに伴い、玄海原子力発電所での津波の影響を評価した結果、敷地高さ（海拔+11m）は十分に高く、安全性に影響がないことを確認しています。

【津波評価の概要】

	現 行	今 回
基準津波高さ (発電所沖合約3km地点)	約0.7m上昇	約1.3m上昇
取水ピット前面の最大 津波高さ(満潮時)	海拔+6m程度	海拔+7m程度
取水ピットの 最低水位(干潮時)	海拔-4.5m程度	海拔-4.5m程度*

※ 引き波に伴う海面下降時については、長期評価を考慮しても、海水ポンプが取水できることを確認



(参考) 長期評価を踏まえた津波の波源

